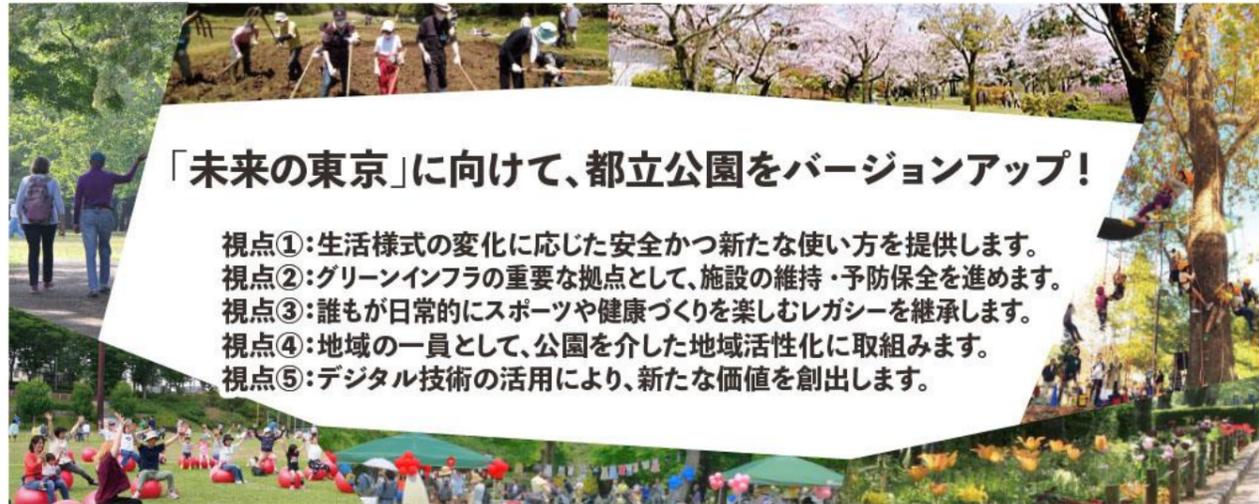


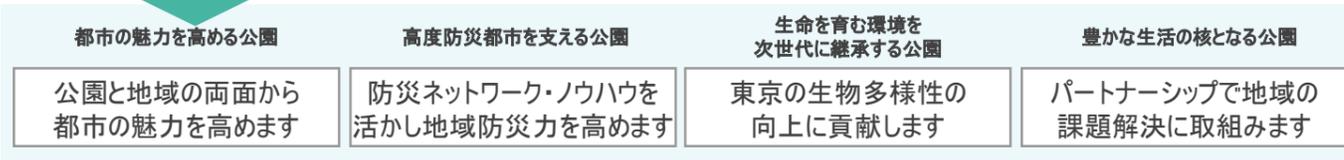
1. 管理運営に関する基本的事項

1 公の施設の管理運営に対する基本的な考え方

●時代のニーズや状況変化に対応し、東京都とともに「未来の東京」戦略を進めます。



上記の視点でこれまでの取組を継承・発展！



2 管理運営の基本理念と、目指す各公園の姿

これまで私たちは、里山のポテンシャルを引き出しながら、子育て、健康、脱炭素、生物多様性、地域活性化等、現代社会が抱える様々な問題を解決していく「サステナブルチャレンジ」を進めてきました。しかし、この数年に社会環境は大きく変化し、持続可能な社会に貢献する取組はさらに急務となっています。

公園の管理運営においてもより具体的に行動していくため、これまでの取組をさらに発展させ、基本理念を「持続可能な社会に貢献する公園づくり『サステナブルアクション』」とし、産官学民の協働をさらに進めます。

また、東京2020大会のレガシーを継承しつつ、東京の宝物である狭山丘陵から「SATOYAMA」を国内外に広く発信し、「未来の東京」の実現、「世界から選ばれる都市」づくりに貢献していきます。



「サステナブルアクション」による各公園の姿

狭山公園	狭山丘陵を楽しむ子育て支援と観光連携の拠点
狭山・境緑道	狭山丘陵につながる魅力あふれる緑道
八国山緑地	地域連携で水と緑のネットワークを拡充する緑地
東大和公園	雑木林博物館として、次世代に引き継ぐ雑木林
中藤公園	歴史や文化の魅力を発信するマイクロツーリズムの推進の場
野山北・六道山公園	協働による新しい里山文化と資源循環を創造するフィールド

3 私たちが持つノウハウの活用と各構成員の役割

私たちは、狭山丘陵グループの指定管理者として16年間の実績があります。その期間に培ったノウハウやネットワークを基盤に、各構成員の持つ専門性や特性を活かし、安定した公園管理と多様なニーズに柔軟に対応していきます。

《コンソーシアムの特徴と強み》

- 代表企業は東京都西部地域を地盤とするグループ企業であり、全国の多種多様な指定管理実績を踏まえた地域価値向上の視点によるトータルコーディネートを行うことができます。
- 行政と地域をつなぐ中間支援NPOが構成員となっており、官民連携・協働事業を強力に推進できます。
- 防災、健康をテーマとした事業活動を行う構成員により、現代の社会課題解決に迅速に対応できます。



安定した公園管理と、多様なニーズに柔軟に対応できるコンソーシアム



4 指定管理者の責務

私たちは、気候変動や格差等の幅広い課題の解決を目指すSDGsの理念や目標等を、産官学民連携による公園づくりそのものと捉えています。民間の事業主体として、経済面、環境面、社会面の3つの視点による総合的な判断から、SDGsの達成に向け、積極的に社会的責任を果たしていきます。

また、このような社会的責任を果たすことは、事業主体としての社会的信頼性の向上につながるのと同時に、多様なパートナーシップを生み出し、新たな公園価値の創造を実現するものと考えています。



2. 人員配置計画等

1 人員配置計画

●全体・公園別・部署別の管理運営に基づく配置

効率的かつ効果的に管理するため、全ての公園を統括する「①全体管理」、公園毎に正確に、確実に管理する「②公園別管理」、部署毎に専門性を発揮する「③部署別管理」の3つの管理体制によって業務を実施。

2 組織体制・指揮命令系統と役割分担

- 統括管理所の設置による効率的効果的な指揮命令体制の構築。
- 日常の報告連絡相談による、都、地元自治体、消防、警察等との綿密な連携体制確立。
- 公園管理運営に携わる全員（管理所スタッフ、ボランティア、協力団体等）を対象とした緊急時対応訓練の実施。
- 発災時、被災時の現地・本部一体となった安全確保と早期の施設機能の復旧。
- 管理所のない公園には管理担当責任者を配した管理体制の構築。

3 人材の確保と職員の技術・能力向上への取組

●よりよい公園の管理運営に活かせる人員体制の構築

- 《人材確保》年齢や性別等に関係なく、管理運営に必要なノウハウ、資質等を持つ人材を確保。
- 《人材配置》個々の能力やチームバランスによる適材適所の実施と臨機応変な対応ができる体制を構築。
- 《人材育成》公園管理に必要な基礎的、専門的技術や能力の向上と、モチベーションの向上に繋がる取組を実施。
- 《労務環境》働きやすさや生きがい等、個々の能力やライフステージに応じた、柔軟な配置・働き方のできる環境を整備。

3. 運営管理計画

1 都立公園の管理運営についての実施方針と具体的な取組

●環境の変化や新たなニーズに応じた管理運営

これまでの管理運営の品質を維持しながら、「未来の東京戦略」に示されている4つの基本戦略に基づき、ニーズに柔軟かつスピーディーに対応する管理運営を実施

- ①バックキャストの視点で将来を展望
- ②多様な主体と協働して事業を推進
- ③DXで運営管理の効率化
- ④変化に弾力的なアジャイル対応

公園のポテンシャル×ニーズを迅速に反映するPDCAサイクル



2 質の高いサービスを提供するための具体的な取組

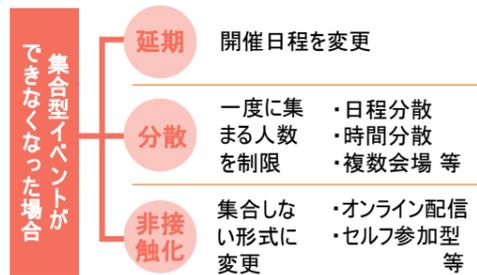
●公園の利用促進と活性化、サービス水準向上に向けて

《利用促進と活性化》

- ・公園の広報・ブランディング強化を図る「Park Branding Labo」の設置
- ・ターゲットを想定した情報ツールによる情報発信
- ・多様なサービスを提供する来園しやすい拠点づくり

《サービス水準の向上》

- ・ターゲット毎にニーズに合った満足度の高いイベント、プログラムの実施
- ・安全で快適な利用を支える環境・体制の拡充



3 利用者要望の把握方法と管理業務への反映方法

●PDCAマネジメントサイクルに基づく利用者要望の把握と業務への反映

- ①多様な手段による意見の把握
- ②PDCA部による分類
- ③意見への対応（迅速な確認と対応、関係機関等との調整）
- ④対応の報告・対応のマニュアル化・理解促進の取組

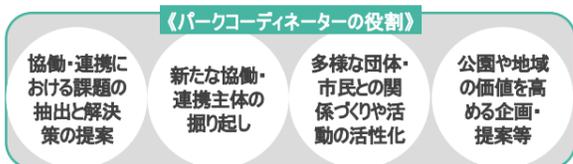
パークモニタリングシステムを活用したデータベース化



4 都民協働や地域コミュニティとの連携による公園の魅力や地域の価値の向上につながる取組

●公園を軸に地域の価値を高める、都民や地域との連携による公園づくり

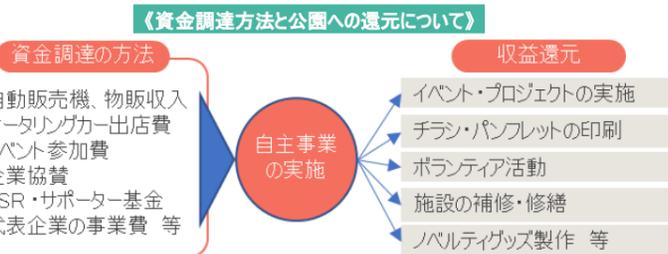
- ・専門スタッフ「パークコーディネーター」の多様な主体とのパートナーシップによる協働と連携
- ・サステナブルアクションを地域と共に実現する「あつらいいなをみんなでつくる公園プロジェクト」の実施
- ・狭山丘陵で活動する人を増やす！段階的なプログラムを提供「楽しむ・学ぶ・行動する」の3段階
- ・産官学民協働による企画立案や協議会・懇談会の開催
- ・狭山丘陵プロモーションの推進（自主事業）



5 公園の魅力向上と利用促進を図るための自主事業等の提案

●事業内容と期待できる効果

- ・公園に新しい魅力を加える・利便性を高めるプロジェクト
- ・里山環境を活かした心身のヘルシープログラム
- ・狭山丘陵の自然体験やマイクロツーリズムを推進するプロジェクト
- ・サステナブルアクションプロジェクト



6 東京2020大会レガシーを継承する取組

●継承する具体的取組の提案

- ・レガシー①: スポーツ・健康づくりの習慣の高まり
- ・レガシー②: 質の高い施設のバリアフリー環境の向上
- ・レガシー③: ボランティア活動の活性化
- ・レガシー④: インバウンド向け取組の広がり
- ・レガシー⑤: 障害者等共生社会への理解促進



4. 施設維持管理計画

1 適切な維持管理を行うための取組

●品質確保に向けた業務管理の実施

- ・各関連法令や指針・基準等を遵守
- ・日常巡回と定期点検にて維持管理を的確かつ効率的に実施
- ・パークモニタリングシステムを活用したタイムリーな情報共有、早期発見・早期対応と予防保全
- ・施工維持管理部門の実績のある代表企業による技術支援・コスト管理・検査監督の実施
- ・多角的な視点（公園内部、本部、利用者）を踏まえたPDCAマネジメントサイクルの運用
- ・パートナーズ本部の専門スタッフと管理所のスタッフによるパークスキャンの実施

維持管理を革新するための（維持管理DX）システム『パークモニタリングシステム（通称“パークモニ”）』の活用



2 事故・自然災害及び感染症などの社会問題への対策・対処するための取組

●地域防災力の向上にむけて公園での防災活動をきっかけとした安全・安心な地域づくり

《事故、自然災害及び感染症など未然・最小限に防ぐ対策》

- ①様々な主体・視点による点検と予防保全
- ②事故発生シーン毎に想定した備えの充実
- ③各関連機関との連携・情報共有・普及啓発
- ④備えと発生時の対応と検証

《社会課題における組織体制及び対応》

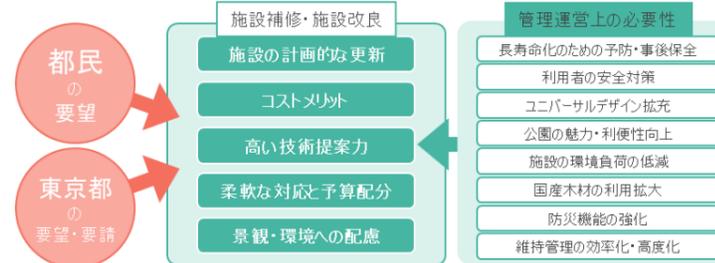
- ①公園版タイムラインの策定と指定管理者の役割を明確化
- ②公園版タイムラインを活用した定期的な防災活動の開催と改善
- ③各関係機関や地域住民の公助・共助における「顔の見える関係構築」



3 施設補修、施設改良に関する要望への取組

●施設補修や施設改修に対する効果的な実施方策

- ・都民や東京都からの要望と利用者の安全確保を第一に総合的な判断
- ・民間ならではの柔軟な対応と技術提案力、コストメリットをもって実施
- ・周辺の景観と調和し、環境へ配慮した補修・改良により、公園の魅力を持続・向上



4 丘陵地特性を踏まえた植生管理

●里山植生を協働により保全する先進的かつ多様な事業の展開

- ①協働により管理体制の継承・発展
- ②里山生態系の保全
 - ・里山本来の植生を回復・維持
 - ・ナラ枯れ後の樹林地管理
 - ・希少種保全を通じた多様な植栽の回復
 - ・外来種防除による既存植生・生態系の保全
 - ・水と緑のネットワーク形成
- ③普及啓発・環境教育の継続実施



5 公園もつ緑の特性を一層引き出すための新たな維持管理の考え方

都立公園の緑は、右図に示した多様な機能を持ちます。私たちはこの機能が発揮できる、質の高い緑の確保とその向上を目的に維持管理に取り組んできました。その中で、近年、持続可能な地域社会の形成に向けて様々な社会課題に対応していくため、自然が持つ多様な機能を活用していく「グリーンインフラ」の考え方が重要視されています。私たちは、グリーンインフラを支える重要な拠点である公園で、緑の持つ多様な機能を、多様な主体の参画により発揮させ、「未来の東京」の持続可能性を支える維持管理を実践していきます。

私たちは、グリーンインフラの視点を踏まえ、狭山丘陵の美しい里山風景を保全・創出しながら、緑の多様な機能を発揮させる維持管理を実践します。

緑の持つ多様な機能を活用し多様な主体の参画で複雑化する社会課題の解決に貢献

「未来の東京」持続可能な維持管理の実践